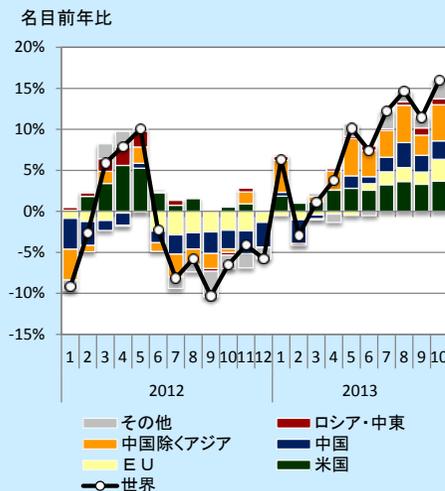


日本：貿易統計（2013年10月）

MRI Daily Economic Points
November 20, 2013

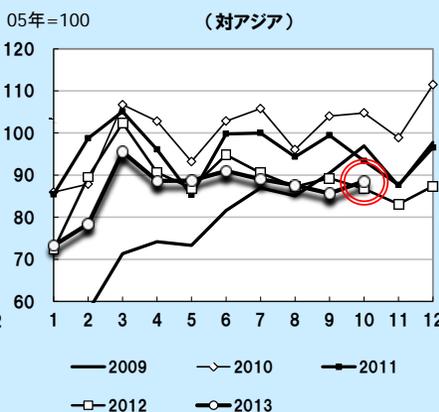
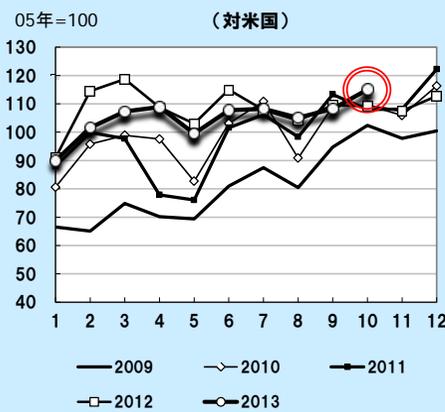
地域別輸出



輸出入と収支



地域別輸出数量指数



資料：財務省

評価ポイント

今回の結果

- 10月の貿易統計は、輸出が前年比+18.6%と8ヶ月連続で増加、輸入も同+26.1%と12ヶ月連続で増加した。
- 輸出額の増加は、円安による価格面の影響が大きいが(名目実効レートは前年比25.5%の円安、輸出価格指数は同+13.6%)、数量指数も同+4.4%と2ヶ月振りに増加。
- 輸出額を品目別にみると、鉱物性燃料(前年比+80.8%)、有機化合物(同+38.3%)が引き続き伸び、昨年の中国での買い控えの裏が出た自動車(同+31.3%)や、円安の恩恵もあって、非鉄金属(同+17.1%)、鉄鋼(同+13.4%)、一般機械(同+15.0%)、電気機器(同+15.0%)など幅広い品目が伸びた。
- 輸出数量を国別にみると、米国向け(同+5.3%)が堅調、EU向け(同+8.0%)が持ち直しつつある一方、アジア向け(同+2.0%)はASEAN向けの減速などから相対的に鈍い伸びにとどまった。
- 輸入は、先月(前年比+16.5%)から大幅に伸びているが、これは昨年10月の石油石炭税の増税により輸入が落ち込んだことの裏によるものであり、季調済前月比では+0.5%と、小幅な増加にとどまっている。
- 日銀の実質輸出入によると、10月の輸出は前月比+2.5%と2ヶ月振りの増加、輸入は同▲1.1%と3ヶ月振りの減少となった。

基調判断

- アジア向け輸出に一部弱い動きがみられるものの、先進国向け中心に、輸出は総じて持ち直し傾向にある。

今後の流れ

- 先行きは、海外需要は力強さを欠くものの、14年にかけて、緩やかに回復していくとみられるほか、昨年末以来の円安もラグを伴いながらも輸出数量の増加に寄与してくるとみられ、輸出は緩やかな持ち直し傾向をたどると予想する。
- 貿易収支は、当面、赤字基調を続けるとみられるが、輸出の緩やかな回復から、一段の赤字幅拡大は回避する見通し。